

ゆりのき通信

Think Globally, Act Locally

第8号 H25.09.20 ゆりのき会発行

復興支援in気仙沼

8月16日から19日まで、宮城県気仙沼市、気仙沼大島に行ってきました！

今回の東北へのボランティアは、豊橋東ロータリークラブ主催で、東三河の高校11校91人が参加しました。

活動内容

サンマ漁船出港見送り

気仙沼漁港で、震災後初のサンマ漁船の出港式がありました。

そこで、今回のボランティアに参加した東三河の高校生達で大漁旗を作り、大漁を祈って見送りをしました。

この出港式を見て、被災地の人々がいかに明るく前を向いて生きているのかということを感じることができました。



現地の清掃活動

気仙沼漁港近くの復興商店街周辺の草刈りをしました。

草刈りをしていると、津波での漂流物や、元々そこに家があった跡など、そこに人が住んでいた跡を感じることができました。



島民の方との交流

気仙沼大島の方と、クイズ大会や東三河の手筒花火などを通じて交流をしました。

この交流の翌日、島民の方が「昨日はありがとね。」「花火きれいだったよ。」と笑顔で言ってくれたことが、忘れられません。

この交流で、島民の方との親睦が深まったような気がしました。



仮設住宅への訪問

高校生全体を三つの班に分けて、大島の仮設住宅へ訪問しました。スイカ割りなどを通じて、仮設住宅の方の笑顔を見ることができました。仮設住宅の方とお話をしたりすることで、メディアでは見えてこない被災した方の心の傷跡や、仮設住宅での暮らしぶりなど本当の被災地について理解できました。

語り部の方からのお話

大島と気仙沼をつなぐ海上タクシー「ひまわり」の船長さんの菅原進さんのお話を聞きました。

菅原さんからのお話で、津波が押し寄せる中、捨て身で沖に向かい船を守ったこと、人命救助の様子など、被災当時の生々しい状況を知ることができました。そして、このお話を聞いて、菅原さんの優しさ、島民の方との深いつながりを感じることができ、自分自身災害時にどのようにして命を守る行動をとれば良いのか、被災後の地域のつながりの重要性について考えることができました。



復興商店街での買い物

復興商店街は、プレハブ小屋で出来た商店街でした。しかし、そこにはどんなに苦しい状況でも明るく生きていこうとしている被災地の方の力強さを感じました。

また、店員さんが嬉しそうに接客をしている様子や、「気仙沼にまた来てくださいな。」と言っていた様子が今でもはっきりと心に残っています。

解散式

桜丘高校で解散式を行いました。今回のこの体験でいつもとは違った出会いができ、自分自身を大きく成長させることができました。また、幅広い高校生の考えを知ることができ、自分たちで、被災地の方のために小さくても行動を起こそうという気持ちが生まれました。

そして、この経験をこの1回で終わりにするのではなく、これからも継続して活動を続けていくこと、周りに広めていくことが重要だとわかりました。

